

中部地区講習会報告(静岡地区)

1 第1回静岡地区講習会(新任研①)

(1)実施日時 令和5年4月21日(金) 10:30~16:00

(2)会場 静岡市特別支援教育センター

(3)内容 全体会「静言研について」

講師 静言研事務局長 青木 教美

全体会「通級指導教室担当の心得」

講師 じゃんけんぼん 夏目 徹也 氏

分科会(言語)「『ことば』ってなあに？」

講師 言語聴覚士 石間 志津代 氏

分科会(発達)「子どもの身体づくりから学習支援～多感覚機能調整法～」

講師 じゃんけんぼん 夏目 徹也 氏

(4)研修報告

静言研の発足の経緯、理念、および活動についての講話、および、通級指導教室の担当者としての心構えや保護者や在籍校との連携の大切さ、教材教具の活用方法について学ぶことができた。

分科会(言語)では、子供の言葉の育ちについて学ぶことができた。今後通級指導教室の言語担当として関わる子供たちの見取り方や、支援の仕方を考える機会となった。

分科会(発達)では、人間は多くの感覚を使って自分を知り、相手や社会を知っていくのであり、感覚こそが成長の鍵であるという視点から、各感覚を育てることについて学ぶことができた。

2 第2回静岡地区講習会

(1)実施日時 令和5年6月26日(月) 10:00~12:00

(2)会場 静岡市特別支援教育センター

(3)内容 「寄り添い勇気づける支援を学ぶ」

講師 静岡県立大学短期大学部社会福祉学科 教授 松平 千佳 氏

(4)研修内容

対人援助技術を専門とし大学でソーシャルワークを教えながら、医療的ケア児や被虐待児に「遊び」で支援をする臨床の現場を持つ講師から、「遊び」をキーワードに、子どもとその家族に対する見方や支援方法を学んだ。子ども時代にタイムスリップして「遊び」の原風景を思い起こす体験をした後、虐待を受けた子どもやその家族との事例を交えながら、子どもや保護者との向き合い方についての話を伺った。バランスウィールのシート、ポケットフレンドなどの具体的な方法も紹介していただいた。参加者は皆話引き込まれており、正しさや結果を求めてしまうことへの反省や遊びの重要性を再認識、具体的な支援の事例を早速生かしたいなどの感想が寄せられた。

3 第3回静岡地区講習会(新任研②)

(1)実施日時 令和5年6月16日(金) 9:35~16:00

(2)会場 静岡市特別支援教育センター

(3)内容 「構音障害について」

「構音検査の評価と指導の実際」

講師 言語聴覚士 石間 志津代 氏

(4)研修報告

構音障害の基礎知識と構音障害のある児童に対する指導の基礎、基本を学ぶことができた。その後通級児童の事例を基にそれぞれに合わせた指導法を教えてくださいました。

4 静岡地区検査技能講習会

- (1)実施日時 令和5年7月4日(火)
- (2)場所 静岡市役所清水庁舎 3階 ふれあいホール
- (3)内容 高校等保護者説明会
- (4)研修報告

今年度から、静岡地区の地区講習会として実施した。参加者は 84 名で、中学校通級指導教室に在籍する生徒の保護者の方だけでなく、市内の小学校や中学校、幼児言語教室などにも広報をしたため、通常学級・幼児言語教室職員・小学校通級指導教室職員などの参加があり、幅広い教育関係者の研修の機会となった。

説明会では、各高校で行っている授業形態や取り扱っている通学コースなどの紹介をはじめ、サポート体制のお話があった。様々な困り感をもつ生徒に、個別支援と集団生活のバランスの調整や、高校卒業後の進路や社会に出てから必要になるスキルを踏まえた指導内容・教育課程の紹介をしていただいた。実施後のアンケートからも、「説明会に参加してよかった」の質問に、とても思う・まあ思うが 100%であったことから、参加者から高評価を得ることができた。

5 第4回静岡地区講習会

- (1)実施日時 令和5年8月28日(月) 14:00~16:00
- (2)会場 静岡市特別支援教育センター
- (3)内容 「伝えられないもどかしさとともに生きる」
講師 フリーライター 京都芸術大学他非常勤講師 近藤 雄生 氏

(4)研修報告

①吃音と私

近藤先生が、ご自身の吃音とどう向き合い、10代から30代を生きてきたかを旅の写真と共にお話いただいた。

②子どもと吃音

吃音のある子どもにどうかかわったらよいかについて、「相手を思い、その時自分が一番いいと思ったことをするしかない。」と伺い、そのためには、想像力と寛容さが必要であると思った。「それぞれのやり方でやっていくことに寄り添う気持ちが大事である。」「ともに悩み、ともに問題を抱えようとする気持ちこそが支えになる。」というお話も伺った。

③吃音を取り巻く環境について

当事者にとって、吃音による困難や苦しさは決して大きく変わっていないこと、支援の届かない人もいること、誰にとっても生きやすい寛容な社会でありたいと願うことをお話しいただけた。

吃音のある人が感じる吃音の問題の根深さを、多くの当事者と対話してきた当事者である近藤先生からお話しいただけた。先生のお話の一言一言が、相手の思いを考える重みのあるものであった。「相手を思うとは」、「人に寄り添うとは」、どういうことかを問い直す機会になった。「逃げるのが許される社会」「十分に待つことができる社会」といった社会の寛容性についての提言も納得できるものであった。



6 第5回静岡地区講習会

(1)実施日時 令和5年8月30日(水)

(2)場所 静岡市特別支援教育センター

(3)内容 「HSC 児童理解と支援方法について」

講師 株式会社サステナミー代表 皆川 公美子 氏

(4)研修報告

今年度は、定員を50名程度に設定し、対面での研修を実施した。参加者は55名で、小学校・中学校の通級指導教室や幼児言語教室の担当を中心に行われ、静言研会員の養護教諭などの参加もあり、幅広い教育関係者の研修の機会となった。

講習会では、HSCやHSPの特性や支援方法を紹介して頂き、HSCは個性として捉え、多くの強みや良さに目を向けていく大切さを知ることができた。そして、その強みや良さを引き出すためには、安心して過ごせるよう刺激量を調整したり、子どもの言っていることや気持ちに共感しながら聞いたりすることが重要であることが分かった。具体的な支援方法を教えていただき大変学びの多い時間となった。実施後のアンケートでも、大変良かった・よかったという回答が100%であったことから、参加者に多くの学びのある会になった。

7 第6回静岡地区講習会

(1)実施日時 令和5年12月18日(月)

(2)場所 静岡市特別支援教育センター

(3)内容 「感覚統合～幼児期に大切なあそびについて考える」

講師 じゃんけんぽん 夏目 徹也 氏

(4)研修報告

公立小学校の通常の学級・支援学級、支援学校などの指導経験を積み、現在は焼津市で発達支援教室「じゃんけんぽん」で指導されている夏目先生を講師にお招きした。「感覚統合」の観点から前提感覚、固有感覚、触覚等の基礎感覚についての知識と、子どもの弱い感覚にアプローチする方法を学んだ。様々な感覚に刺激を与える活動や、先生手作りのものも数多くある教材を、エピソードを交えながらたくさん紹介していただいた。

参加者は幼児担当者を中心に30名以上が集まり、実際の指導のことを考えながら楽しく話をうかがい、支援者自身も子どもとかわることを楽しんで、これからの指導に生かしていけそうとの感想をもった。

